

ポケット残留塩素計への検量線入力操作

ポケット残留塩素計には、2つの検量線があらかじめ入力されています。

遊離塩素試薬または全塩素試薬を使用し発色させ、そのままご使用いただけます。

さらに、ご自分で調製および値付けした標準液を使用し、検量線を入力する事も可能です。



1. 検量線入力の概要

検量線の入力は、「標準液濃度」をキーにより入力し、「その標準液の吸光度」を読み込んでいきます。吸光度の読み込みは、「標準液に、試薬を加え発色させ測定する」ことでおこないます。したがって、キー操作による吸光度入力には対応していません。

2. 準備するもの

標準液（他の測定方法で値付けされた標準液）およびブランク（ゼロ液）

※標準液は2種類以上準備してください。

※要求される測定範囲より濃い標準液を、上限濃度として準備してください。

※試薬反応後の吸光度は、2.5Abs以下の標準液濃度を上限としてください。

パウダーピロー発色試薬（10mL用）

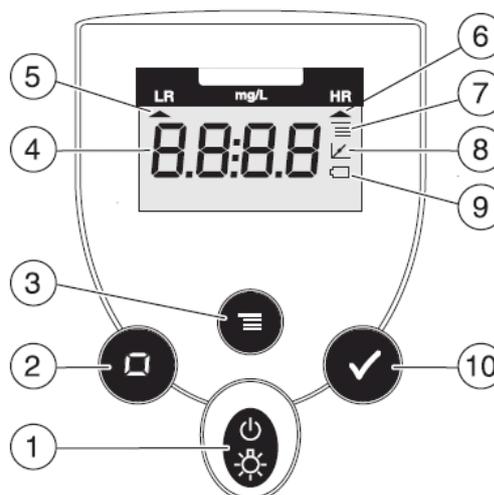
遊離塩素試薬（Cat、21055-69/HACH0578）

全塩素試薬（Cat、21056-69/HACH0582）

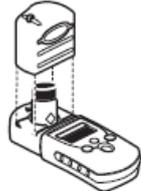
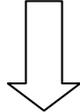
測定セル（測定容器）（Cat、24276-06/HACH1082）

3. キーおよび表示部

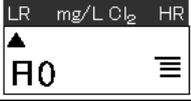
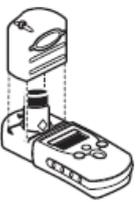
①	電源およびバックライトキー
②	ゼロ測定およびスクロールキー
③	MENU キー
④	数値表示部
⑤	Low レンジ (LR) 設定マーク
⑥	High レンジ (HR) 設定マーク
⑦	メニュー操作中表示
⑧	検量線調整表示
⑨	電池残量低下表示
⑩	測定および ENTER キー

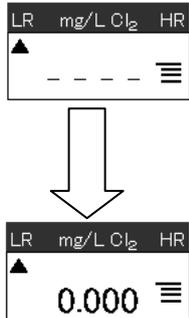
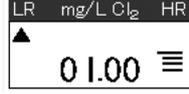
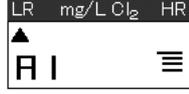


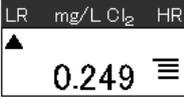
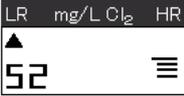
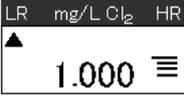
4. 入力前の機器確認操作

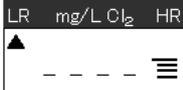
	操作および状態説明	機器の表示
1	 電源キーを押します。	
2	<p>ブランク水を、測定セルに入れ キャップを閉めます。</p>  <p>測定セルの外側を綺麗に拭き取り、 ポケット残留塩素計のセルホルダーにセットして、 セルホルダーカバーで蓋を（遮光）します。</p> 	
3	 キーを押して、ZERO校正をおこないます。 測定中をあらわす「— — —」が表示された後、 ブランク水を測定した濃度が表示されます。	  
4	<p>ブランク水を、ポケット残留塩素計のセルホルダーにセット したまま（セルホルダーカバーで蓋をした状態）で、</p>  キーを押して測定をおこないます。 ZERO校正されているので、測定値が「0.00」となること を確かめます。	

5. 入力操作

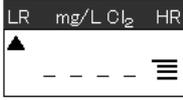
	操作および状態説明	機器の表示
1	 電源キーを押します。	
2	 キーを押し続けます。 <u>5秒以上、押したままにしてください。</u> 「USER」と表示されたらキーを離してください。 「USER」と表示後、自動的に「CAL」表示になります。	 ↓ 自動的に表示が変わります ↓ 
3	 キーを押します。 「S0」が表示されます。 「S0」は、1ポイント目の濃度です。	
4	もう一度、  キーを押します。 「S0」の濃度入力表示に換わります。 一番左の「0」が点滅した「00.00」が表示されます。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> この時、 キーを押すと桁を移動することができます。 </div>	
5	「S0」には、「0」を入力するので、「00.00」のままです。 <u>「S0」は、必ず「0」にしてください。</u>	
6	 キーを4回押します。 「A0」が表示されます。	
7	「A0」は「S0」に対応した標準液を測定した際の吸光度です。 「S0」は濃度0の液となりますので、必ずブランク水を測定して、吸光度を読んでください。 ブランク水を、測定セルに入れ キャップを閉めます。  測定セルの外側を綺麗に拭き取り、 ポケット残留塩素計のセルホルダーにセットして、 セルホルダーカバーで蓋を（遮光）します。 	

<p>8</p>	<p> キーを押して、ブランク水を測定します。</p> <p>測定中をあらわす「— — —」が表示された後、 ブランク水を測定した吸光度が表示されます。</p>	
<p>9</p>	<p> キーを押します。 「S 1」が表示されます。</p> <p>「S 1」は、2ポイント目の濃度です。</p>	
<p>10</p>	<p> キーを押します。 「S 1」の濃度入力表示に換わります。</p> <p>一番左の「0」が点滅した「0 1. 0 0」が表示されます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>この時、 キーを押すと桁を移動することができます。</p> <p>また、 キーで点滅する数値を変更することができます。</p> </div>	
<p>11</p>	<p> と  の2つのキーで、 調製または値付けした標準液の濃度を入力します。</p>	 <p>※濃度が0.5の入力例です</p>
<p>12</p>	<p>一番右の桁が点滅した状態で  キーを押します。 「A 1」が表示されます。</p> <p>「A 1」は、2ポイント目の濃度を測定した時の吸光度です。</p>	
<p>13</p>	<p>調製または値付けした標準液を、 測定セルに10mL 入れます。</p>  <p>測定試薬を入れてキャップを閉めて溶解します。</p>  <p>指定された反応時間を待った後、測定セルの外側を 綺麗に拭き取り、ポケット残留塩素計のセルホルダー にセットして、セルホルダーカバーで蓋（遮光） をします。</p> 	

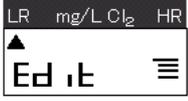
<p>14</p>	<p> キーを押して、標準液を測定します。</p> <p>測定中をあらわす「— — —」が表示された後、標準液を測定した時の吸光度が表示されます。</p> <p>2ポイント目の吸光度が表示されます。</p>	 
<p>15</p>	<p>さらに、検量線のポイントを追加する場合には、操作 16 に進んでください。</p> <p>ここまでの 2 ポイントで検量線入力を完了する場合には、操作 24 に進んでください。</p>	
<p>16</p>	<p>検量線のポイントを追加するには、  キーを押します。 「Add」が表示されます。</p>	
<p>17</p>	<p> キーを押します。 「S2」が表示されます。</p> <p>「S2」は、3ポイント目の濃度です。</p>	
<p>18</p>	<p> キーを押します。 「S2」の濃度入力表示に換わります。 ※キー操作をしなくても、「濃度入力表示」に換わります。 一番左の「0」が点滅した「00.00」が表示されます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>この時、 キーを押すと桁を移動することができます。</p> <p>また、 キーで点滅する数値を変更することができます。</p> </div>	
<p>19</p>	<p> と  の2つのキーで、調製または値付けした標準液の濃度を入力します。</p>	 <p>※濃度が 1.0 の入力例です</p>
<p>20</p>	<p>一番右の桁が点滅した状態で  キーを押します。 「A2」が表示されます。 「A2」は、3ポイント目の濃度を測定した時の吸光度です。</p>	

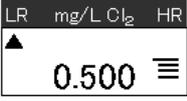
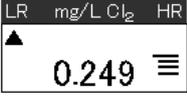
<p>21</p>	<p>調製または値付けした標準液を、測定セルに 10mL 入れます。</p>  <p>測定試薬を入れてキャップを閉めて溶解します。</p>  <p>指定された反応時間を待った後、測定セルの外側を綺麗に拭き取り、ポケット残留塩素計のセルホルダーにセットして、セルホルダーカバーで蓋（遮光）をします。</p> 	
<p>22</p>	<p> キーを押して、標準液を測定します。</p> <p>測定中をあらわす「— — —」が表示された後、標準液を測定した時の吸光度が表示されます。</p> <p>3ポイント目の吸光度が表示されます。</p>	 
<p>23</p>	<p> キーを押します。 「Add」が表示されます。</p> <p>さらに、検量線のポイントを追加するには、操作 16～操作 22 を繰り返します。</p>	
<p>24</p>	<p>検量線の作成を終えるには、 キーを <u>2回押し</u> 操作を完了します。</p> <p>入力操作を完了すると、ZERO校正待ちの表示になります。</p>	

6. 測定

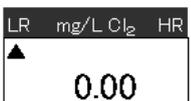
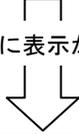
<p>1</p>	<p>ブランク水を、測定セルに入れ キャップを閉めます。</p>  <p>測定セルの外側を綺麗に拭き取り、 ポケット残留塩素計のセルホルダーにセットして、 セルホルダーカバーで蓋を（遮光）します。</p> 	
<p>2</p>	<p> キーを押して、ZERO校正をおこないます。</p> <p>測定中をあらわす「— — —」が表示された後、</p> <p>ZERO校正した結果「0.00」が表示されます。 濃度値の右側に、グラフマーク（検量線調整表示）が 確かめられます。 これは、検量線作成をおこなった際に表示されます。</p>	 <p style="text-align: center;">↓</p> 
<p>3</p>	<p>調製または値付けした標準液を、 測定セルに10mL 入れます。</p>  <p>測定試薬を入れてキャップを閉めて溶解します。</p>  <p>指定された反応時間を待った後、測定セルの外側を 綺麗に拭き取り、ポケット残留塩素計のセルホルダー にセットして、セルホルダーカバーで蓋（遮光） をします。</p> 	
<p>4</p>	<p> キーを押して、標準液を測定します。</p> <p>測定中をあらわす「— — —」が表示された後、</p> <p>標準液濃度に対応した、測定結果が表示されます。</p> <p>濃度値の右側に、グラフマーク（検量線調整表示）が 確かめられます。 これは、検量線作成をおこなった際に表示されます。</p>	 

7. 入力した検量線の確認

	操作および状態説明	機器の表示
1	 電源キーを押します。	
2	 キーを押し続けます。 <u>5秒以上、押したままにしてください。</u> 「USER」と表示されたらキーを離してください。 「USER」と表示後、自動的に「CAL」表示になります。	 自動的に表示が変わります 
3	 キーを押し、「Edit」を表示させます。	
4	 キーを押すと、「SO」が表示されます。	
5	もう一度、  キーを押すと、「SO」で入力された濃度が表示されます。 検量線作成の際入力した濃度（「SO」は「0」）であることを確認します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> この時、 キーを押すと桁を移動することができます。</div>	
6	 キーを4回押し「AO」を表示させます。	
7	 キーを押すと「AO」で読み取った吸光度が表示されます。 ブランク水を測定した際の吸光度が表示されます。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> この時、 キーを押すと桁を移動することができます。</div>	

8	 キーを押し、表示桁を移動させて「S 1」を表示させます。	
9	 キーを押し、「S 1」に入力された濃度が表示されます。	 ※濃度が0.5の入力例です
10	 キーを押し、表示桁を移動させて「A 1」を表示させます。	
11	 キーを押すと「A 1」で読み取った吸光度が表示されます。 <i>調整標準液を測定した際の吸光度が表示されます。</i> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">  この時、キーを押すと桁を移動することができます。 </div>	
12	操作 8～操作 11 を繰り返して、入力濃度と読み取り吸光度を確認します。	
13	入力された検量線のポイントの表示が終わると「A d d」と、表示されます。	
14	 キーを <u>2回押し</u> 確認操作を終了します。 <i>ZERO校正待ちの表示になります。</i>	

7. 入力した検量線の消去（工場出荷時に戻す）

	操作および状態説明	機器の表示
1	 電源キーを押します。	
2	 キーを押し続けます。 5秒以上、押したままにしてください。 「USER」と表示されたらキーを離してください。 <i>「USER」と表示後、自動的に「CAL」表示になります。</i>	 <p>自動的に表示が変わります</p>  
3	 キーを押し、「dFL」を表示させます。	
4	 キーを押すと、工場出荷状態に戻ります。	